



土木学会京都大会報告

## 第49回通常総会

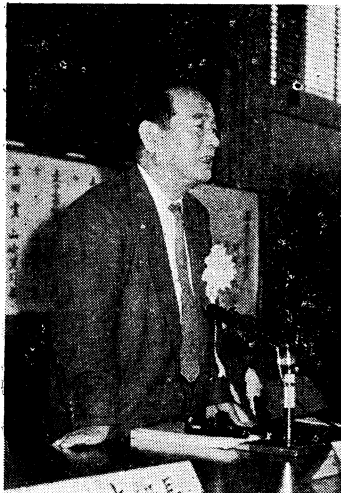
昭和12年以来、丸25年ぶりの京都における学会は、35年4月に完成した岡崎の京都館会議場で開かれた。古き都の良さを抽象化した近代的な会館は前川国男氏の設計になる京都市御自慢の建物である。

昭和38年5月24日、静かなバイオリンの調べが流れるなかを定刻14時開会、藤井会長議長席につき末森専務理事の司会により矢野大会委員長を紹介、歓迎の言葉が述べられ、つづいて藤井議長が立ち、関西支部の協力を謝し、末森専務理事より出席会員929名（委任状をふくむ）をもって法定数786名を越えたので総会が成立する旨報告があり、ここに第49回通常総会を宣し、議事に入った。

### 議案 1. 昭和37年度

#### 事業報告 (37.4.1~38.3.31)

歓迎の言葉を述べる矢野大会委員長



大石理事より説明し承認された。

### 1. 理事改選 (37.5.23, 常議員会で当選)

会長 藤井松太郎 (新任)  
 永田年 (退任)  
 副会長 岡本舜三 (新任)  
 山本三郎 (留任)  
 滝山養 (退任)  
 専務理事 末森猛雄 (留任)  
 理事 大石勇 岡部保  
 岡本東一郎 (再選)  
 田中五郎 竹ヶ原輔之夫  
 三野定 渡辺新三  
 (以上新任)  
 奥村敏恵 金子収事  
 長浜正雄 松本繁樹  
 (以上留任)  
 阿部一郎 小倉宏三  
 尾之内由紀夫 岡本東一郎  
 小西一郎 佐藤肇  
 林泰造 (以上退任)

### II. 役員登記

理事変更登記 昭和37年8月13日

### III. 通常総会および役員会

(1) 通常総会 (37.5.26, 早稲田大学大隈小講堂)

出席者: 903名 (委任状747名をふくむ)

有権者 14811名

(法定数741名)

1) 昭和36年度事業報告 承認  
 2) 昭和36年度決算報告 承認  
 3) 土木学会規則の一部(会費)改正報告 正員1800円, 学生員900円に改正 (37.4.1より実施)

4) 名誉員につきの10君を推挙 承認  
 池辺 稲生 岩崎 雄治 小野 基樹  
 大蔵 公望 箕 斌 治 金子源一郎  
 佐藤忠三郎 高橋 三郎 中村 廉次  
 三輪 周蔵

5) 土木賞の授与

土木学会賞: 君島 博次  
 大石 重成

土木学会奨励賞: 日野 幹雄

倉西 茂

6) 吉田賞および吉田研究奨励金の授与

吉田賞: 三村 通精 上野 勇  
 細谷 浩正 (連名)  
 和仁 達美 川口 輝夫  
 菅原 操 野口 功  
 羽田野義直 (連名)

吉田研究奨励金: (個人研究者)

西沢 紀昭 長滝 重義  
 野口 功 西林 新毅  
 徳光 善治

(グループ研究者)

松本 嘉司 中村 正平  
 河野 清 中山 紀男  
 岡村 甫

7) 新任役員(理事)の紹介(前掲の方々)

永田会長講演「大河川における縮切りと排水設備」

### (2) 常議員会

1) 定例 (37.5.23)

1. 昭和37年度理事選任  
 2. 昭和36年度事業報告 承認  
 3. 昭和36年度決算報告 承認  
 4. 名誉員推挙について 承認  
 5. 土木賞の授与 承認  
 6. 吉田賞および吉田研究奨励金の授与 承認

2) 定例 (38.3.30)

1. 昭和38年度事業計画案 承認  
 2. 昭和38年度予算案 承認  
 3. 土木学会定款改正 承認

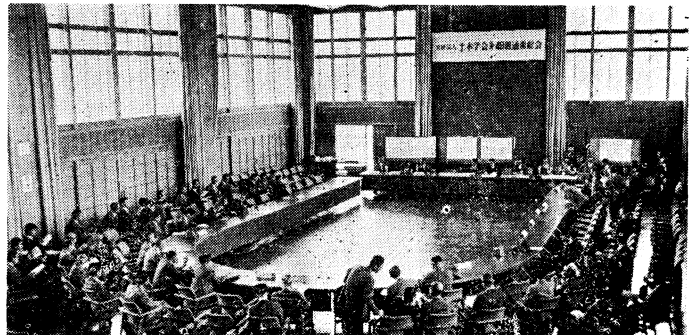
### (3) 理事会

定例 昭和37年4月~昭和38年3月  
 12回

1. 協議事項 96件  
 2. 報告事項 各種委員会およびその他

### (4) 支部幹事長会議

1) 37.11.28: 正員および特別員増強について具体的な検討, 支部賛助員制度



総会会場全景

## 事業報告をする大石理事(右は田中理事)



化についての審議、支部選出の会誌編集委員を支部幹事と兼任することについての検討、支部の予算、決算科目の統一についての審議、支部規定改正について意見の交換

2) 38.3.15: 土木学会規則の改正についての意見の交換、支部規定の統一制定についての意見の交換、経理処理の説明、改正定款の説明

### IV. 各種委員会

#### (1) 会誌編集委員会

委員長 八十島義之助, 副委員長 堺毅, 委員および幹事 35 名

1) 委員会 13 回, 小委員会 13 回, その他打合せ 15 回, 2) 土木学会誌 47 巻 4 号~48 巻 4 号 13 冊, 登載原稿: 論説 7, 報告 44, 解説 13, 資料 9, 寄書 13, 講演 12, 講座 7, 座談会 3, その他, 随想, 海外事情, 研究所めぐり, 豆知識, 論文紹介, 文献紹介, 文献抄録, 文献目録, 話のひろば, ロータリー, ニュース等, 3) 発行ページ 1920 (本文および広告をふくむ), 4) 発行部数 201 000 部, 5) 内容平易化を目標に座談会, その他, 種々の企画を行ない, 12 月号には 1962 年の回顧と展望を特集した。

#### (2) 論文集編集委員会

委員長 丸安隆和, 副委員長 山川尚典, 委員および幹事 39 名

1) 委員会, 部会長会 6 回, 各部会 5 回, 幹事会 2 回, 2) 論文集 (80~92 号 13 冊), 3) 発行ページ数 710 ページ, 4) 発行部数 43 600 部, 5) 80 号より月刊に切りかえ, 購読者に対するサービス向上, 増ページを計画中。

#### (3) 文献調査委員会

委員長 千秋信一, 委員および幹事 24 名

1) 委員会 12 回, その他の打合せ 6 回, 2) 学会誌 47 巻 4 号~48 巻 4 号に文献抄録 96 ページ, 文献目録 70 ページを登載, 3) 文献の整理をはじめ, 各

研究機関にある文献の調査を行ない, さらに国際会議の文献についても調査中である。

#### (4) 出版企画委員会

委員長 佐藤寛政, 副委員長 荒井力, 委員および幹事 29 名

1) 委員会 4 回, 幹事会 4 回, 2) 会誌, 論文を除く, 学会出版物および監修出版物の調整, 新規刊行物としては, 従来なかった工事報告類の出版, シリーズ物としてコンクリート・ライブラリー, トンネル工学シリーズなどの刊行を行なった。3) 主な出版物: 坂本アーチダム, コンクリート・ライブラリー第 1 号~6 号, 最近の基礎工法, 第 9 回海岸工学講演会講演集, トンネル工学シリーズ No. 1, 第 7 回水理講演会講演集, Coastal Eng. in Japan Vol. V, Civil Eng. in Japan 1961。

#### (5) 水理委員会

委員長 伊藤剛, 副委員長 横田周平, 委員 45 名 (うち幹事兼務 18 名)

1) 委員会 1 回, 幹事会 3 回, 2) 第 7 回水理講演会 (37.10.15) を行ない講演集を刊行, 3) 37 年度水理学研究の現況を会誌に発表, 4) 水理公式集の改訂につき小委員会を設置した, 5) 安芸峻一, Camp, Daily, Escand 4 氏の講演会を開催, 6) 河川災害に関する水理学シンポジウムに対する協力。

#### (6) 海外連絡委員会

委員長 田中茂美, 幹事長 八十島義之助, 委員および幹事 15 名

1) 委員会 2 回, 2) 英文年報 Civil Engineering in Japan. 1962~3 の編集完了, 3) 海外進出について PR 活動を協議, 4) その他国際会議に関する事項を処理。

#### (7) 耐震工学委員会

委員長 那須信治, 委員 26 名

1) 委員会 10 回, 2) 地震工学トレーニング・センターに協力, 3) 地震工学国内シンポジウム (37.11.15~17) を建築, 土質, 地震の各学会と共催で行ないプロシーディングスを刊行, 4) 北米濃, 宮城北部, 北海道地震等調査報告書の作成, 5) 国鉄委託耐震構造設計委員会について, 6) International Association for Earthquake Engineering に協力, 7) 外国との文書による質疑応答について, 8) 地震工学国内委員会に協力, 9) 国際会議について, 10) 土木学会誌の講座について, 11) 本州四国連絡橋技術調査委員会耐震設計小委員会について, 12) 英文耐震規定の改訂について。

#### (8) 海岸工学委員会

委員長 本間 仁, 委員 32 名

1) 委員会 2 回, 2) Coastal Engineering in Japan Vol V. 刊行しついで Vol VI. を執筆中, 3) 第 9 回海岸工学講演会を (37.10.16~17) 開催し, 講演集を刊行, 4) 1966 年に国際会議開催を目標に準備, 5) 海岸保全施設設計便覧の改訂および海岸工学用語集の刊行を計画中。

#### (9) トンネル工学委員会

委員長 藤井松太郎, 幹事長 加納俊二, 委員 (うち主査兼務 3 名) および幹事 47 名

1) 委員会 5 回, 幹事会 4 回, 小委員会 29 回, 小委員会幹事会 6 回, 2) トンネル工学シンポジウム (37.6.21) を開催し, トンネル工学シリーズ(1)を刊行, 3) トンネル工学標準示方書の制定のため, 調査, 設計, 施工の各小委員会を設け, 原案を作成中, 4) 国鉄新幹線丹那トンネル工事現場の視察を行なった。

#### (10) コンクリート委員会

委員長 国分正胤, 委員および幹事 58 名

1) 委員会 1 回, 幹事会 4 回, 打合せ 7 回, 適時小委員会, 幹事会, 打合せを開催し大略下記のようなことを行なった。

1. 示方書の改訂準備, 2. プレストレストコンクリート設計施工指針の改訂にそなえ審議中, 3. 異形鉄筋のシンポジウム(37.5.25), 4. 新進コンクリート技術者の交歓会を開催, 5. 吉田賞委員会との協力, 6. 日本 A.C.I. に協力, 7. 土木, 建築におけるコンクリート用語の統一, 8. 原子力に関する小委員会の設置計画, 9. コンクリート・ライブラリーの刊行(1号~6号), 10. コンクリート用接着剤シンポジウムの計画。

#### (10-1) 鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会

委員長 国分正胤, 委員 49 名 (うち幹事兼務 3 名)

1) 委員会 1 回, 主査幹事会 2 回, 分科会 11 回, 2) 鉄筋コンクリート標準示方書改訂のため各編につき, 分科会で討議, 検討中。

#### (10-2) 無筋コンクリート標準示方書改訂小委員会

委員長 国分正胤, 主査 樋口芳朗, 委員および幹事 41 名

1) 委員会 3 回, 2) 無筋コンクリート標準示方書改訂について審議中。

#### (10-3) フライアッシュ小委員会 (委託)

委員長 国分正胤, 委員幹事 23 名

1) 委員会2回, 2) フライアッシュを混和したコンクリート中の鉄筋のサビに関する長期研究を継続中, 3) フライアッシュを使用した構造物の中性化について調査を行なった。

**(10-4) 異形鉄筋設計研究小委員会(委託)**

委員長 國分正胤, 委員および幹事 14名

1) 委員会3回, 幹事会8回, 2) 異形鉄筋を用いた構造物の設計例(コンクリート・ライブラリー第3号)の刊行を行なった。

**(10-5) 異形鉄筋実験研究小委員会(委託)**

委員長 國分正胤, 委員 19名,

1) 高強度異形丸鋼の研究につき試験研究を施行中

**(10-6) プレストレスト コンクリート委員会**

委員長 國分正胤, 委員および幹事 55名(うち幹事兼務2名)

1) 幹事会1回, 分科会3回, 2) 次期プレストレスト コンクリート設計施工指針改訂にそなえ設計, 施工, コンクリート, 鋼材, グラウトの5分科会に分けて調査研究中。

**(10-7) コンクリート構造急速施工委員会(委託)**

委員長 國分正胤, 主査 杉木六郎, 委員および幹事 26名

1) 委員会4回, 幹事会1回, 2) コンクリート構造物の急速施工につ, 国内, 国外の実例の集取および検討審議を行ない報告書を作成した。

**(11) プレストレスト コンクリート鉄道橋設計施工基準研究小委員会(委託)**

委員長 國分正胤, 委員および幹事 33名

1) 委員会1回, 幹事会9回, 2) 昨年度の報告書で条文のみ立案したが, 本年度はそれの検討および解説の作成を行ない報告書を作成した。

**(12) 合成桁鉄道橋設計示方書研究委員会(委託)**

委員長 沼田政矩, 副委員長 成瀬勝武, 委員および幹事 28名

1) 委員会4回, 幹事会1回, 2) 合成桁鉄道設計示方書(案)および解説を作成し, 報告書として提出した。

**(13) 耐震構造設計研究委員会(委託)**

委員長 岡本舜三, 幹事長 久保慶三郎, 委員および幹事 52名

1) 委員会1回, 2) 次記の諸項につき審議をし, 報告書としてとりまとめた。

1. 荒川橋梁における地震動, 常時微

動の観測結果, 2. 首都高速道路公園で行なった地震動測定結果, 3. 構造物の振動試験結果, 4. 水中橋脚の振動性状と耐震設計, 5. 地中および地上における地震動の規定, 6. 外国における耐震規定。

**(14) 八郎潟干拓船越水道水理研究特別委員会(委託)**

委員長 本間 仁, 委員および幹事 14名

1) 委員会4回(現地視察1回), 打合せ1回, 2) 八郎潟干拓の船越水道改修に対する調査結果の解析, 応用方法ならびに設計施工法に関する技術的検討を行ない報告書を作成した。

**(15) 原子力土木技術委員会**

委員長 左合正雄, 委員(うち幹事兼務1名)および幹事 17名

1) 委員会9回, 2) 原子力総合講演会, 他原子力関係の講演会に協力, 3) 原子力コンクリート委員会(仮称)設置について, コンクリート委員会と会合を行なった。4) 土木学会理事の東海村原子力研究所の見学を実施した。5) その他, 土木工学における原子力に関する種々の問題について研究, 討議を行なった。

**(16) 衛生工学委員会**

委員長 広瀬孝六郎, 委員(うち幹事兼務3名) 16名

1) 委員会4回, 2) 第2回国際水質汚濁研究会議の開催に協力中, 3) その他, 衛生工学に関する問題を調査研究中。

**(17) 水理公式集改訂委員会**

委員長 横田周平, 委員 37名(うち主査兼務4名, 幹事兼務4名)

1) 委員会1回, 主査幹事会4回, 部会8回, 2) 水理公式集改訂について: 河川, 港湾および海岸, 発電水力, 上下水道の4部会を設置し改訂原案作成中。

**(18) 学術講演連絡委員会**

委員長 林 泰造, 委員(うち幹事兼務1名) 14名

1) 委員会3回, 2) 中部支部と共催で, 最近の基礎工法を主とした講習会(38.3.19)を開催, 3) 昭和38年度事業計画として, 夏期講習会を決定。秋のエキスカッション, 関東地区学生諸君のための行事, 見学会, 講演会の企画。

**(19) ハンドブック編集委員会**

委員長 沼田武雄, 主査および幹事 68名, 執筆委員約300名

1) 主査幹事会5回, 2) ハンドブック改訂に当り提出された原稿を整理し, 本年12月刊行を目ざし目下編集中。

**(20) 本州四国連絡橋技術調査委員会(委託)**

委員長 田中 豊, 委員および幹事

38名

1) 委員会1回, 幹事会4回, 2) 前年度に引き続き建設省および国鉄から委託された研究で, 本州四国連絡橋の技術的な審議, 検討を行ない, 昨年度設置した基礎に関する専門部会について, 上部構造に関する専門部会耐風設計小委員会を設けそれぞれ研究中, さらに耐震設計小委員会設置を計画中。3) 7月に現地視察を行なった。

**(20-1) 本州四国連絡橋技術調査委員会基礎に関する専門部会(委託)**

部会長 広田孝一(沼田政矩と38.1.24交代), 委員および幹事 45名

1) 部会3回, 幹事会11回, 2) 基礎に関する事項について種々の調査研究を続行中。

**(20-2) 本州四国連絡橋技術調査委員会上部に関する専門部会(委託)**

部会長 青木楠男, 委員および幹事 39名

1) 部会3回, 幹事会9回, 2) 上部に関する事項について種々の調査研究を続行中, 3) 小委員会として耐風設計小委員会を設けた。

**(20-3) 本州四国連絡橋技術調査委員会耐風設計小委員会(委託)**

委員長 平井 敦, 委員(うち幹事兼務8名) 35名

1) 委員会4回, 幹事会4回, 2) おもに長大橋の耐風設計の問題につき調査研究を続行中。

**(21) 土木賞委員会**

委員長 藤井松太郎, 副委員長 岡本舜三, 委員 17名(うち主査兼務2名)ほかに幹事4名

1) 委員会1回, 主査幹事会5回, 幹事会3回, 2) 37年度土木賞受賞者の選考を続行中。

**(22) 吉田賞委員会**

委員長 永田 年, 副委員長 大石重成, 委員 30名, 幹事4名

1) 委員会1回, 主査幹事会4回, 小委員会4回, 2) 吉田賞の授賞者および吉田研究奨励金の被授与者の選考を材料, 構造, 研究奨励金の各小委員会で続行中, 3) 吉田賞委員会内規および授与規定について討議。

**(23) 高校土木教育研究会**

委員長 沼田政矩, 幹事長 八十島義之助, 委員および幹事 29名

1) 委員会2回, 幹事会3回, 2) 高校教育に関して調査をし, 指導書の原因を作成し, 近く刊行する, 3) その他高校における土木教育に関する調査研究を行なった。

## (24) 50周年記念事業委員会

委員 61名(うち常任委員 21名)

1) 準備のための各種委員会 7回, 2) 会館建設委員会のほか 37年度に記念事業実行委員会, および総務委員会を設け, 実行計画を練り次年度早々に行事委員会, 記念出版委員会を設け事業計画の促進を計った。

## (25) 橋梁構造委員会

委員長 福田武雄, 委員および幹事 19名

1) 第9回橋梁構造工学研究発表会(橋梁構造に関する新しいアイデア)を10月17日大阪で開催し, 講演集を刊行した。

## (26) 土木賞規約制定委員会

文書により土木賞の内規につき意見の調整を行ない, 理事会に改訂につき具申し, 土木賞委員会に一部改訂一部試行するよう申入れを行った。

## (27) その他の常置委員会

1) 土木振興対策委員会, 2) 大正以降土木史編集委員会, 3) 製図規格委員会, 4) 土木工学叢書委員会, 5) 海岸保全施設設計小委員会, 6) 災害対策委員会

## V. 本部行事

### 1. 講演会

a) 37.4.4: 安芸皎一 講演会および懇談会, 土木学会, 参加者 29名

b) 37.5.26~27: 第17回年次学術講演会, ①総合講演 早稲田大学大隈小講堂, 7題 参加者 450名, ②一般講演 早稲田大学教室, 288題 参加者 2200名

c) 37.6.12: F.A. Camp 教授講演会, 土木学会, 参加者 20名(水理関係者)

d) 37.8.24: T.W. Daily 教授講演会および歓迎会, 学生会館, 参加者 12名

e) 37.9.1: L. Escande 教授歓迎会および講演会, 歓迎会, ホテル国際観光, 参加者 19名

37.9.13: 講演会, 日本化学会, 参加者 120名

f) 37.9.18: A. Grijwinski 教授講演会および歓迎会, 学生会館, 参加者 15名

g) 37.10.15: 第7回水理講演会, 都民ホール, 講演 10題 参加者 130名

h) 37.10.16~17: 第9回海岸工学講演会, 都民ホール, ①講演会 特別講演 2題, 一般講演 31題, 参加者 150名, ②見学会(10.18)東京電力KK新火力発電所豊洲工場, 東京港および水門工事見学, 参加者 34名

## 2. シンポジウム

a) 37.5.25: 異形鉄筋シンポジウム, 土木学会, 13題, 参加者 130名

b) 37.6.21: 第1回トンネル工学に関するシンポジウム, 私学会館, ①シンポジウム 講演 6名, 参加者 515名, ②見学会(6.22)国鉄新幹線丹那トンネル東口見学, 参加者 116名

## 3. 講習会

a) 37.8.30~31: 夏期講習会「最近の基礎工法」, 厚生年金会館, 講師 10名, 映画 6種, 参加者 930名

37.9.1: 見学会 a班 国鉄新幹線東京駅工事, 神奈川県下工事の一部, 参加者 145名, b班 首都高速道路工事, 地下鉄工事, 羽田空港モノレール建設予定地, 参加者 147名

b) 38.3.19: 最近の基礎工法を主とした講習会(中部支部と共催), 名古屋市公会堂, 講師 6名, 参加者 305名

## 4. 国際会議報告会

38.2.20: 第8回国際海岸工学会議報告会, 土木学会, 報告者 4名, 参加者 26名

## 5. 秋のエクスカーション

37.10.25~26(中部支部と共催)電源開発KK尾鷲第1・第2発電所, クレスボダム, 坂本ダムおよび池原ダム建設工事ならびに中部電力KK尾鷲火力発電所基礎工事見学, 参加者 61名

## 6. 見学会

a) 37.5.28~29: 総会にともなう見学会, A班 箱根バイパス, 国鉄新幹線丹那トンネル東口見学, 参加者 64名

37.5.28: B班 国立競技場拡張工事, 首都高速道路工事, 地下鉄工事見学, 参加者 142名,

37.5.28: C班 東京瓦斯KK豊洲工場, 東京港および水門工事見学, 参加者 43名

37.5.28: D班 千葉工業港, 辰巳団地, 東京湾フェリー, 東京電力KK横須賀火力発電所, 参加者 81名

b) 37.9.28~29: 北海道見学会(北海道支部と共催), 札幌, 室蘭間弾丸道路, 苫小牧港工事, 室蘭港, 豊浦付近国道工事, 中山峠の国道その他見学, 参加者 41名

c) 37.11.7: 国鉄新幹線試乗および工事見学会, 鴨宮, 相模川左岸往復, 参加者 27名

d) 37.11.10: 国鉄新幹線丹那トンネル東口見学会, 参加者 90名

e) 38.1.22: 国鉄新幹線試乗会, 鴨宮, 相模川左岸間往復(2回), 参加者 407名

## 7. 懇親会, 交歓会

a) 37.5.25: 新進コンクリート技術者との交歓会, 土木学会, 参加者 44名  
b) 37.5.26: 総会会員懇親パーティー, 早稲田大学大隈会館, 参加者 157名

## 8. 映画会

37.4.21~38.3.16: 関東地区学生諸君のための映画会 11回(うち2回講演会共)上映 41種, 参加者延べ 389名

## 9. 関係学協会と共催および後援行事

a) 37.9.6~8: 第12回応用力学連合講演会, 東京大学

b) 37.9.26~29: 宅地造成技術者講演会, 虎門共済会館

37.10.22~25: 宅地造成技術者講演会, 大阪府庁職員会館

37.11.26~29: 宅地造成技術者講演会, 日本消防会館

c) 37.10.11~12: 第6回材料試験連合講演会, 京都大学

d) 37.10.16~17: 第11回レオロジー討論会, 大阪商工会議所

e) 37.10.17: 第9回橋梁構造工学研究発表会, 大阪建設会館, 24題, 参加者 150名

f) 37.11.15~17: 地震工学国内シンポジウム, 私学会館 46題, 参加者延べ 1500名

g) 37.11.19: 風に関するシンポジウム, 建設省建築研究所

h) 38.2.16~17: 河川災害に関する水理学シンポジウム(後援), 日本化学会

i) 38.2.22~23: 原子力研究総合発表会, 学生会館

j) 38.2.22~23: 塑性設計シンポジウム, 大阪中央電気倶楽部

## VI. 支部行事

(1) 北海道支部 支部長 猪瀬寧雄

1. 総会(37.4.18)札幌市民会館

2. 役員会(37.5.31~12.7)4回(うち2回臨時)

3. 幹事会(37.6.19~38.1.25)4回

4. 支部規定改正検討小委員会(38.3.19)1回

5. 支部奨励賞せんこう委員会(38.3.25)1回

6. 本部, 支部懇談会(37.9.29)札幌山形屋, 話題, 支部発展対策, 本部支部間の連絡その他

7. 本部, 支部事務局打合(37.9.30)札幌山形屋, 打合事項 特別員増強対策, 事務取扱いその他

8. 講演会(37.7.18)合同庁舎, 講演者 首都高速道路公団理事 中島武, 京都大学教授 石原藤次郎, 参加者 60名

9. 講習会(38.2.20)海外事情その他講習会,札幌市民会館,講師3名,参加者100名

10. 研究発表会(38.2.19)発表22題参加者26名

#### 11. 見学会

a) 37.7.21: 稲穂隧道,白糸隧道,パソノ沢橋各工事見学,参加者33名

b) 37.9.28~29(本部と共催): 札幌,室蘭間弾丸道路,苫小牧港,室蘭港,豊浦付近国道工事,中山峠の国道見学,参加者41名

(2) 東北支部 支部長 小西則良,畑谷正実

1. 役員会(37.4.6~38.3.19)5回

2. 幹事会(37.5.8~37.10.22)2回

3. 委員会(37.6.1)1回

4. 支部会計監査(37.4.1)1回

5. 支部総会(37.5.10)仙台セントラルホテル,特別講演1名,映画4種,懇親会

#### 6. 講演会

a) 37.7.2: 東北大学教授 原田千三日立ファミリーセンター 映画1種,参加者100名

b) 37.9.7: 海外事情講演会 盛岡市公園下教育会館,講演者4名,参加者160名

#### 7. 講習会

a) 37.7.18~19: 道路講習会(共催)仙台市日出国会館,講師6名,映画3種,参加者440名

b) 37.8.21~23: コンクリート講習会(共催),仙台市公会堂,講師11名,参加者649名,①実習(8.23),②見学会A班 国道13号線栗子トンネル,B,C班 大倉ダム

c) 37.10.17: 土質関係講習会(共催)仙台第一ビル,講師2名,参加者100名

8. 技術講座(37.9.11~12)土木地質技術講座,東北大学6題,講師1名,参加者135名

#### 9. 見学会

a) 37.6.19~20: 県営発電所,湯田ダム工事,国鉄鷲巣橋梁見学 参加者56名

b) 37.9.20: 蔵王有料道路見学,参加者85名

10. 懇談会(37.9.3)藤井会長を囲む懇談会,仙台市みうら,話題 本支部間の緊密化,事業の拡大,特別員に対するサービス,関連学会との共催その他

(3) 中部支部 支部長 中谷茂一

1. 役員会(37.4.14~38.3.18)4回

2. 幹事会(37.5.8~38.3.18)9回

3. 支部大会(37.10.20~21)富山市

#### 公会堂

記念講演 富山土木部長 秋山規輔  
北陸電力KK建設部長

和沢清吉

立山,黒部,有峰

開発KK技術部長

四十万祐吉

金沢大学教授 喜内 敏

見学会 北電第2発電所,常願寺川改修工事,北電火力発電所,富山新港見学

懇親会 氷見市永芳閣

#### 4. 講演会

第1回講演会(37.6.26)名古屋市内大津橋会館,講演3題,映画2種,参加者120名

第2回講演会(37.8.22)名古屋市内交通ビル,講演4題,参加者80名

第3回講演会(38.1.25)名古屋市内大津橋会館,講演2題,映画1種,参加者80名

5. 講習会(38.3.19)最近の基礎工法を主とした講習会(本部と共催)名古屋市公会堂,講師6名,参加者305名

6. 研究発表会(37.11.17)信州大学,特別講演 長野県土木部長 小林武雄,発表26題,映画1種,参加者120名

#### 7. 見学会(一般会員)

第1回(37.5.9)国鉄新幹線名古屋,二川間工事見学,参加者86名

第2回(37.7.25)名古屋港および東海製鉄工事見学,参加者110名

第3回(37.9.18)名神高速道路名古屋関ヶ原間工事見学,参加者121名

第4回(38.2.6)名四国道完成現場見学,参加者115名

(学生)

a) 信州大学(37.5.12~15)東京周辺見学(4年生),参加者40名

(37.5.15~16)名古屋周辺見学(3年生),参加者30名

b) 岐阜大学(37.11.15)昭和コンクリート揖斐川工場,横山ダム見学,参加者48名

c) 金沢大学(37.11.13)七尾港,PSコンクリート工場,セメント工場見学,参加者45名

d) 名古屋工業大学(38.2.16)名古屋市鍋屋上野浄水場,西山,堀留・山崎各下水処理場見学,参加者50名

8. 秋のエキスカッション(37.10.25~26,本部と共催)電源開発KK尾鷲第1・第2発電所,クチスボダム,坂本ダムおよび池原ダム建設工事ならびに中部電力KK尾鷲火力発電所基礎工事見学,参加者61名

(4) 関西支部 支部長 矢野勝正

1. 幹事会(37.4.18~38.3.19)14回(うち1回臨時)

2. 商議員会(37.5.18~38.2.15)4回

3. 元支部長会(38.3.6)1回

4. 昭和37年度学生見学会常設委員会(37.6.20)1回

5. 38年土木学会総会実行委員会(37.11.15~38.1.11)4回

6. 土木賞ならびに吉田賞候補論文支部推薦せんこう委員会(37.12.7)1回

7. 第35回通常総会(37.5.18,中央電気倶楽部)参加者94名

総会懇親会(37.5.18)参加者81名

#### 8. 講習会

a) 37.6.20: 通俗講演会「交通と都市計画に関して」,大阪朝日会館,講演者3名,映画3種,参加者835名

b) 37.11.11: 支部年次学術講演会,立命館大学,特別講演 立命館大学教授谷岡武雄,一般講演74題,参加者258名

c) 37.11.27~29: 「抗基礎の機械化」講演会および見学会(協賛,日本建設機械化協力関西支部主催),大手前会館,講演会 参加者588名,見学会 参加者135名

d) 37.12.4~5: 「土質材料の力学と試験法における最近の問題点」講演会(共催,日本材料試験協会関西支部主催)大阪合同庁舎,参加者263名

e) 38.1.18: 海外事情講演会,中央電気倶楽部,講演2題,参加者64名

#### 9. 講習会

a) 37.12.12~13: 都市環境衛生に関する講習会,大阪府職員会館,講師12名

b) 38.2.21~22: 水資源に関する講習会,大阪府職員会館,講師8名,参加者252名

#### 10. 技術講座

a) 37.9.29: 1号「航空写真測量」美陵町公民会館,参加者107名,見学会日東航空測量所見学

b) 38.1.21~22: 2号「水面形計算法」,大阪建設会館,講師1名,参加者39名

11. 研究会(37.10.4)防災ブロックに関する研究会,大阪建設会館,講演2題,参加者51名

12. 座談会(38.3.6)近畿の土木事業に関する座談会,中央電気倶楽部,講師4名,参加者27名,講師懇親会,参加者22名

13. エキスカッション(37.7.31~8.1)乗鞍方面,参加者48名

14. 学生見学会

a) 37.10.27：梅田地下街工事，名神高速道路豊中インターチェンジ，府道池田線工事，京阪電鉄地下鉄工事見学，参加者 96 名

b) 37.11.17：京阪急行電鉄四条線延長工事，天ヶ瀬ダム，天ヶ瀬水力発電所見学 参加者 124 名

c) 37.12.8：ブルドーザ工事大阪工場，酒井鉄工所見学，参加者 40 名

15. 学生のための映画会

第 1 回 (37.12.1) 10 種，参加者 138 名，京都大学

第 2 回 (37.12.15) 6 種，参加者 78 名，大阪市立大学

第 3 回 (38.1.19) 5 種，参加者 104 名，大阪大学

第 4 回 (38.2.9) 6 種，参加者 150 名，京都大学工業教員養成所

第 5 回 (38.2.11) 5 種，参加者 60 名，神戸大学

16. 会員懇親会

a) 37.10.1：事務局移転披露，参加者 89 名，大阪都ホテル

b) 38.1.18：新春，参加者 57 名，中央電気倶楽部

(5) 中国四国支部 支部長 山本三男

1. 役員会 (37.9.4) 1 回

2. 幹事会 (37.8.16~38.2.1) 7 回

3. 講演会

a) 37.11.20~21：学術講演会 香川県庁内県民ホール，特別講演 3 題，一般講演 31 題，参加者 220 名

b) 38.3.7：丹那トンネル，若戸大橋の調査と工事についての講演会，2 題，参加者 205 名

4. 見学会 (37.11.22) 瀬戸大橋架設ルート，参加者 40 名

5. 38.2：大学，工業高校生表彰 20 名

(6) 西部支部 支部長 松尾春雄

1. 役員会 (37.5.2~38.1.10) 3 回

2. 幹事会 (37.5.10~38.3.22) 5 回

3. 運営調査会 (37.6.2~38.2.6) 6 回

4. 支部総会 (38.3.26，福岡市町村会館)，特別講演 福岡管区気象台長 倉石六郎，映画 1 種

5. 講演会 (37.9.5) ウィーン工科大学教授 ジビンスキー講演，九州大学，参加者 51 名

6. 講習会

a) 37.8.23~24：夏期講習会 大分県九重町飯田小学校，講師 9 名，参加者 178 名，見学会 (8.24) 別府，阿蘇間九州横断道路工事見学

b) 37.10.19：土質工学および基礎関

係講習会 (共催)，九州大学，講師 7 名，参加者 215 名

7. 新材料，新工法発表会 (37.12.18) 福岡市天神ビル，特別講演 九州大学教授 海江田弘也，発表 7 題，参加者 195 名

8. 研究発表会 (38.2.19) 熊本市建設会館，発表 24 題，参加者 146 名

9. 見学会

a) 37.6.8：宮崎県一ツ瀬ダム建設工事，二級国道付替工事見学，参加者 186 名

b) 38.1.18：国鉄新博多駅建設工事，国鉄新柳町立体交差工事，西鉄高宮架道橋径間拡張工事，博多港およびしゅんせつ埋立工事見学，参加者 143 名

VII. 会員年間統計 (37.4.1~38.3.31)

年月	正員	特 別 員							名 誉 員	賛 助 員	学 生 員	合 計
		特 級	1 級 A	1 級 B	1 級 C	1 級 D	2 級	計				
37.3	13 770	14	14	27	144	224	19	442	38	30	960	15 240
38.3	13 477	16	16	32	189	268	24	545	44	30	1 563	15 659
増 減	-293	+2	+2	+5	+45	+44	+5	+103	+6	0	+603	+419

議案 2. 昭和 37 年度決算報告 (37.4.1~38.3.31)

田中理事より説明し原案どおり承認された。

1. 普 通 会 計

収 入 の 部		経 費 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1. 会 費	32 077 800	1. 用 地 費	722 150
1. 正員会費	22 131 717	2. 事 務 費	17 677 629
2. 学生会費	1 049 722	1. 人 件 費	13 464 781
3. 特別員会費	8 896 361	2. 備品消耗品費	1 609 323
2. 論文集購読料	1 401 529	3. 通 信 費	1 031 756
3. 刊 行 物 費	11 063 058	4. 光熱費・その他	1 571 769
1. 既刊行物 26 点	6 769 326	3. 会 費 徴 集 費	865 593
2. 新刊行物 12 点	4 293 732	4. 公 租 公 課 費	549 858
4. 行 事 費	2 311 440	5. 会 議 費	804 984
1. 講習会費	1 499 840	6. 支 部 支 付 金	2 640 000
2. 講演会費	63 500	1. 普通支付金	1 212 045
3. 見学会費	748 100	2. 特別支付金	1 427 955
5. 広 告 料	16 615 300	7. 事 業 費	37 837 020
6. 受 託 研 究 費	8 600 661	1. 会誌発行費	18 439 887
7. 著 者 負 担 金	482 900	2. 論文集発行費	3 624 028
8. 会 誌 論 文 集	251 870	3. 行 事 費	3 271 213
9. 土木工学 ハンドブック編集費	600 000	①講演会費	1 108 714
10. 雑 収 入	1 123 997	②講習会費	1 180 044
11. 基 金 利 子	945 553	③見学会費	982 453
12. 繰 入 金	83 388	4. 調査および研究費	3 315 446
13. 期 末 棚 卸 高	4 771 398	5. 図 書 整 備 費	241 491
		6. 刊 行 物 費	8 944 957
		①既刊行物 6 点	3 852 830
		②新刊行物 6 点	5 092 127
		8. 土 木 賞 費	413 612
		9. 受 託 研 究 費	6 442 172
		10. 渉 外 費	176 997
		11. 施 設 管 理 費	94 908
		12. 引 当 金	3 130 000
		13. 期 首 棚 卸 高	2 920 463
		14. 受 託 研 究 費 収 支 残 額	2 158 489
		15. 次 年 度 へ 繰 越	3 895 019
合 計	80 328 894	合 計	80 328 894

## 2. 吉田賞会計

取 入 の 部		経 費 の 部	
株式配当金	1 665 000	賞 励 金	100 000
預 金 利 子	177 046	獎 員 会 費	600 000
有価証券売却益	998 400	賞 牌 製 作 費	258 050
		事 務 費	180 000
		前年度支出超過金	90 638
		次年度へ繰越	63 152
			1 548 606
合 計	2 840 446	合 計	2 840 446

## 3. 財 産 目 録 (38.3.31 現在)

資 産 の 部		負 債 の 部	
1. 現 金	66 262	1. 基 本 財 産	26 670 610
2. 預 金	3 245 449	1. 基 金	6 970 050
3. 信 託 預 金	2 094 138	2. 吉田徳次郎博士 記 念 基 金	19 700 560
4. 有 価 証 券	28 186 400	2. 運 用 財 産	21 308 966
5. 未 取 入 金	7 017 851	1. 運 用 資 金	10 101 063
6. 仮 払 金	2 756 700	2. 吉 田 賞 資 金	1 548 606
7. 棚 卸 函 書	4 771 398	3. 有 形 固 定 資 産	9 659 297
8. 建 物 お よ び 施 設	8 037 241	3. 引 当 金	3 803 166
9. 什 器 お よ び 備 品	1 622 056	4. 未 払 金	1 126 500
		5. 仮 受 金	4 888 253
合 計	57 797 495	合 計	57 797 495

## 4. 貸 借 対 照 表 (38.3.31 現在)

借 方		貸 方	
1. 現 金	66 262	1. 基 本 財 産	26 667 573
2. 預 金	3 245 449	1. 基 金	6 967 013
3. 信 託 預 金	2 094 138	2. 吉田徳次郎博士 記 念 基 金	19 700 560
4. 有 価 証 券	28 186 400	2. 事 業 資 金	511 254
5. 未 取 入 金	7 017 851	3. 有 形 固 定 資 産	9 659 297
6. 仮 払 金	2 756 700	4. 引 当 金	3 803 166
7. 棚 卸 函 書	4 771 398	5. 未 払 金	1 126 500
8. 建 物 お よ び 施 設	8 037 241	6. 預 り 金	3 404 658
9. 什 器 お よ び 備 品	1 622 056	7. 前 受 金	758 850
		8. 仮 受 金	724 745
		9. 吉 田 賞 資 金	1 548 606
		10. 前 年 度 繰 越 金	5 697 827
		11. 次 年 度 繰 越 金	3 895 019
		1. 基 金 繰 入	3 037
		2. 事 業 資 金 繰 入	80 351
		3. 運 用 財 産 繰 入	3 811 631
合 計	57 797 495	合 計	57 797 495

## 5. 有 形 固 定 資 産 (什器備品をふくむ)

借 方		貸 方	
建物および諸施設	8 037 241	次年度へ繰越	8 037 241
什器および備品	1 622 056	次年度へ繰越	1 622 056
合 計	9 659 297	合 計	9 659 297

## 6. 仮 勘 定

借 方		貸 方	
前 払 金	2 040 084	前 受 金	758 850
立 替 金	573 537	仮 受 金	724 645
仮 払 金	143 079	預 り 金	3 404 658
合 計	2 756 700	合 計	4 888 153

## 7. 基 金 内 訳

1. 故 古市公威 } 両 博 士	24 803
放 沖野忠雄 } 記 念 基 金	
2. 故 白石 直治 博 士	21 992
3. 故 山崎 次郎 博 士	2 333
4. 故 原田 真介 博 士	4 556
5. 故 広井 勇 博 士	14 641
6. 故 小川梅三郎 博 士	1 538
7. 故 富田保一郎 博 士	770
8. 故 石黒五十二 博 士	9 805
9. 故 近藤虎五郎 博 士	12 022
10. 故 中島 鏡治 博 士	4 557
11. 故 阪田 貞明 君	1 713
12. 故 岡崎 芳樹 博 士	2 725
13. 故 太田 円三 君	3 595
14. 故 阪本 雅雄 君	833
15. 故 川上浩二郎 博 士	1 142
16. 故 中山秀三郎 博 士	2 300
17. 故 岡崎 文吉 博 士	1 442
18. 故 野口 誠 君	1 134
19. 故 中川 吉造 博 士	3 396
20. 故 黒河内四郎 博 士	1 028
21. 故 広井 勇 博 士	714
	土木賞牌基金
22. 故 古井 公威 博 士	582
23. 故 来島 良亮 君	578
24. 故 中山秀三郎 博 士	575
25. 故 物部 長穂 博 士	679
26. 日本発送電株式会社	
	記 念 基 金
27. 諸 積 立 金	1 822 901
28. 関西支部維持基金	27 696
29. 吉田徳次郎博士記念基金	19 700 560
合 計	26 670 610

## 8. 引 当 金

借 方	
1. 建物および諸施設引当金	
1. 前 年 度 繰 越 金	673 166
2. 本 年 度 受 入 金	3 130 000
1. 退 職 手 当 引 当 金	1730 000
2. 名 簿 発 行 費 引 当 金	1 000 000
3. 論 文 集 発 行 費 引 当 金	200 000
4. 建 物 お よ び 諸 施 設 引 当 金	200 000
合 計	3 803 166

貸 方	
次 年 度 へ 繰 越	3 803 166
合 計	3 803 166

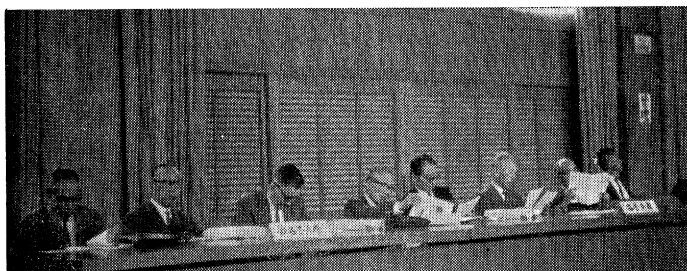
## 議 案 3. 土 木 学 会 定 款 改 正

(改正要旨は本誌 48 巻 6 号 92~93 ページ参照)

末森専務理事より説明があり承認された。

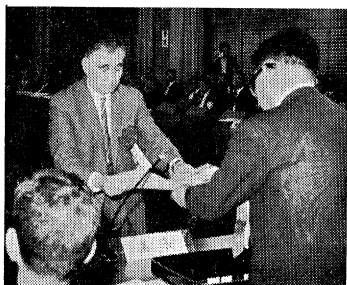
## 議 案 4. 名 誉 員 の 推 挙 に つ い て

(38 年 5 月 11 日 常 議 員 会 決 定 の も の 同 様 に つ き 承)



(永田  
年氏撮影)

藤井会長より推挙状の送贈を  
受ける新名誉員



藤井会長からつぎのとおり候補者を推薦、承認されたので名誉員の紹介があった。

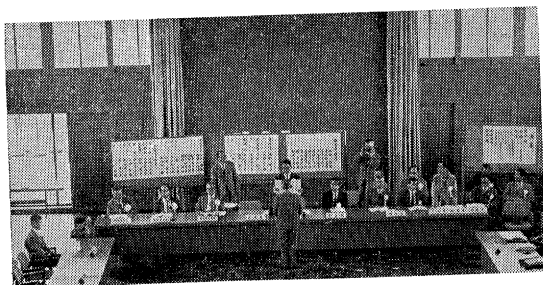
- |       |                           |
|-------|---------------------------|
| 阿部 一郎 | 西松建設KK顧問                  |
| 青木 楠男 | 早稲田大学教授                   |
| 岩沢 忠恭 | 参議院議員                     |
| 泉谷平次郎 | 阪神土木工業KK取締役<br>会長         |
| 佐伯 利吉 | 不二建設KK取締役社長               |
| 鈴木角一郎 | KK天王寺ステーション<br>ビル取締役社長    |
| 鷹部屋福平 | 防衛大学校教授                   |
| 富永 正義 | 三信建設KK取締役会長               |
| 林 千秋  | 日建設工務KK参与                 |
| 松尾 守治 | 福岡県運営審議会委員、<br>博多港運営審議会委員 |

### 議案 5. 土木賞の授与

藤井委員長より別掲のごとき受賞理由の報告があり、つぎのとおり土木学会賞・土木学会奨励賞を授与した。

#### 土木学会賞

1. アーチ ダムの 基盤の 安全性に対



土木  
賞の  
受賞  
風景

する実験的検討方法に関する研究(土木学会論文集第 78 号) 高野 稔

1. ダム コンクリートの品質管理について(土木学会論文集第 84 号)

永田 年

#### 土木学会奨励賞

1. (1) 曲線直交異方性扇形平板の曲げについて(土木学会論文集第 82 号)

- (2) 曲線直交異方性変厚扇形平板の曲げについて(土木学会論文集第 83 号)

芳村 仁

1. (1) 滑面水路床の下流端における洗掘限界(土木学会論文集第 80 号)

- (2) 水門下流部における洗掘限界に関する研究(土木学会論文集第 82 号)

土屋 義人

### 議案 6. 吉田賞および吉田研究奨励金の授与

永田委員長より別掲のごとき受賞理由の説明があり、つぎの各氏に吉田賞および吉田研究奨励金を授与した。

#### 吉田賞

1. 論文 (1) 鉱物質微粉末がコンクリートのウォーカビリティーにおよぼす効果に関する基礎研究(土木学会論文集第 84 号)

- (2) 鉱物質微粉末がコンクリートの強度におよぼす効果に関する基礎研究(土木学会論文集第 85 号)

山崎 寛司

1. 論文 添え梁を用うるアンダー・ピンニング工法に関する研究(鉄道技術研究報告第 300 号、施設編 124 号)

石田 一郎

### 吉田受賞報告をする永田委員長



1. 論文 コンクリートの水密性の研究(土木学会論文集第 77 号)

村田 二郎

#### 研究奨励金

1. 繰返し荷重を受ける鉄筋コンクリート部材の鉄筋継手に関する研究

小林 一輔

伊藤 利治

1. 高強度異形鉄筋コンクリートばりに関する研究

松本 嘉司

河野 清

中山 紀男

岡村 甫

1. 不静定 PC 構造物の塑性ヒンジ生成に関する研究

小柳 治

1. 組合せ応力を受けるコンクリート部材の弾塑性研究(特にプレストレストコンクリート接合部の破壊について)

末永 保美

1. 鉄筋コンクリートばりのせん断強度に関する基礎研究

船越 稔

1. 大断面鉄筋コンクリート構造物の施工方法の研究(コンクリートの温度上昇の影響とその対策)

塚山 隆一

### 議案 7. 土木学会規則改正報告

(改正内容は本誌 96 ページ参照)

末森専務理事 5 月 13 日の定例常議委員会承認いただいた旨報告し、改正の主要点につき説明があり了解された。

### 議案 8. 新任役員(理事)の紹介

藤井会長より昭和 38 年 5 月 13 日の常議委員会選任した 38 年度新役員の紹介があった(別掲)。

#### 会長講演(別掲)

以上をもって議事を終了した。



懇親会

第2日(5月25日)18時より、京都国際ホテル2階ホールで参加者305名のにぎやかな懇親の集いが催された。大会実行委員長 矢野教授の司会で、石田関西支部長、藤井前会長、山本新会長を紹介、それぞれ挨拶があり、ついでちょうど来京の米田参議院議員のスピーチ、島崎名誉員の発声で乾杯、会食に入る。本年は参会者に十分懇親の実をあげて頂くとの意図で、おのおの記名入りのリボンをつけていただくこととし、立ち食いパーティーの形がとられた。ホステスのサービスよろしく、次第にビールもまわり、相互に各テーブルの間をまわってのにぎやかな交歓もいよいよたけなわとなる頃、祇園の舞子さんの都おどりが披露され、京都情緒を盛り上げる。美しい景物に士気ますますこう揚、和やかな雰囲気うちに、武井元関西支部長の発声で万才を三唱し、20時頃、盛大な宴を終わった。

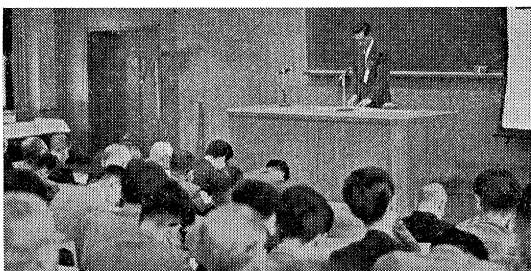
なごやかに談笑する参加者



祇園の舞子による都おどり



総合講演会会場風景



第18回年次学術講演会

総合講演

第2日(5月25日)定刻より、京都大学法経第7教室において、関西支部幹事長米谷教授の司会により、日本道路公団大阪建設局長 高橋敏五郎氏はじめ、6氏の講演がすすめられた。当日はたまたま、名神高速道路の一部一般供用の開始日にあたっており、国造りの講演会として報導関係者の注目もあつめ、開会時にほぼ満員の会場には婦人もちらほらと色どりをそえる。やがて続々つめかける会員に会場は通路もいっぱいとなり、途中に臨時の休憩時間を設けて、補助椅子を追加搬入する始末で、12時15分、盛会のうちに終了した。

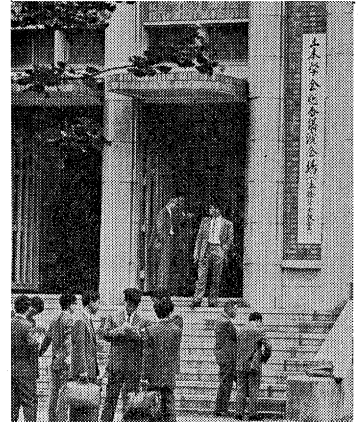
一般講演

本年は初めての試みとして第1日(5月24日)に総会、第2日(5月25日)を総合講演と一般講演、第3日(5月26日)を終日一般講演に当てるようプログラムが組まれた。講演総数347編を4部

門に分け、各部門ごとに2~4会場をふりあて、講演時間を一人12分間、討議時間3分間を設けた。スライド併用の講演が非常に増したことがプログラムの編成をいちじるしく困難にし、同じ専門の講演が別会場とな

ったり、時間順序についてもほとんど調整の余地がないほどであったと聞いている。毎年のごとながら、いろいろご批判もあるようであるが、この状況では、今後は少なくとも全会場にスライドの設備が必要になるであろうと思われるし、講演総数、来会者ともに逐年増加しているので、会期の延長など根本的な改良について考えてみる必要がある。

聴講者も予想に加えて多く、3階教室



などでは特に狭溢が目立った。会場横の運動場で、たまたま野球試合があったため、一時は応援の太鼓が会場内にもとどるきわたることになったが、熱心な会員は、いささかも意に介せず、窓をしめきった熱気こもる会場内で、真剣な聴講、討議が続けられて最後まで非常に盛会であった。

本年もまたご多忙の中を非常なご苦勞をわずらわせた各会場の司会者、ならびに一般報告執筆者各位に紙上より厚くお礼申し上げます。

いろいろご不満の点は次回のスムーズな運営に役立てて頂くことを期待して、何卒ご寛容いただきたいと考える次第である。

第I部門(応用力学・構造力学・橋梁92)

司会者：奥村敏恵、重松 愿、近藤和夫、森 忠次、吉村虎哉、後藤尚男、赤尾親助、成岡昌夫、橋 善雄、星 治雄、倉田宗章、山崎徳也、岡本舜三、大村 裕(聴講者合計 460名)

第II部門(水理学・水文学・河川・港湾・海岸工学・発電水力・衛生工学107)

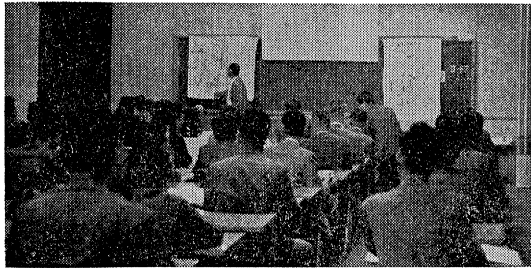
司会者：春日屋伸昌、西畑勇夫、岩垣雄一、田中 茂、篠原謹爾、小川 元、境 隆雄、増田重臣、合田 健、庄司

総合講演会会場風景





同上会場風景



光, 石原安雄, 尾崎 晃, 永井莊七郎, 杉尾捨三郎, 岩井重久, 徳平 淳, 毛利正光 (聴講者合計 620 名)

**第 III 部門 (土質力学・基礎工学・施工, 62)**

司会者: 後藤正司, 最上武雄, 赤井浩一, 市原松平, 畑中元弘, 小田英一, 松尾新一郎, 河上房義, 伊藤富雄 (聴講者合計 340 名)

**第 IV 部門 (鉄道・道路・コンクリートおよび鉄筋コンクリート・土木材料・都市計画・測量 86)**

司会者: 岡部二郎, 小野一良, 渡辺新三, 原田干三, 岡田 清, 荒木謙一, 八十島義之助, 内田一郎, 久保直志, 丸安隆和, 水野俊一, 横道英雄 (聴講者合計 280 名)

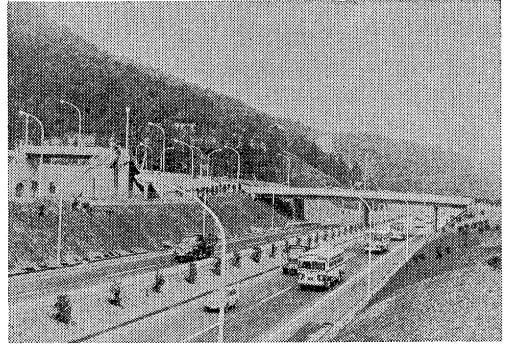
**総合講演**

司会者: 米谷栄二 (聴講者 延べ合計 2400 名)

**見学会(5月27日, 28日)**

**A 班 (京都・滋賀コース)**

連日のうっとうしい雨もあがり今日は見学とあってか薄日のもれる絶好の日和となった。京都駅前広場を、2台のバスに分乗した96名が出発したのは、定刻8時を少しまわった頃である。バスは新緑の京都の街を北に向い北白川から、比叡山ドライブウェイへの途に入る。バスガイドのうるわしき美声にゆられて、白川に沿って山間部を上ると間もなくトールゲートにさしかかる。ここで料金1台当

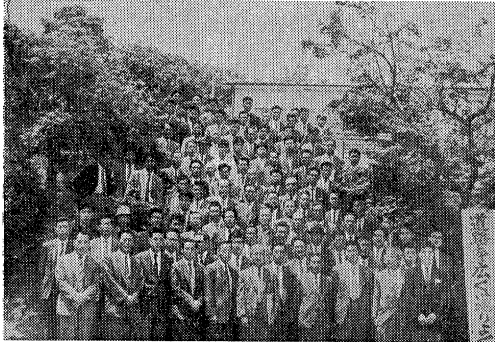


り2600円を支払いドライブウェイへ入る。このドライブウェイは比叡山自動車道KKの経営になる有料道路で、全長8.1km, 車道幅員7~10.3m, 最急勾配10%の舗装道路である。

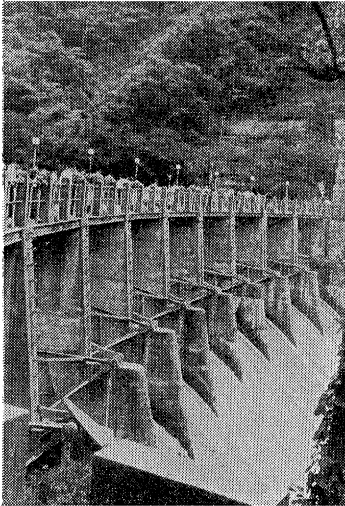
右手に琵琶湖を眺めながら快適なドライブを楽しむ。途中の切取面ののり面にふさふさとした草はアメリカから取り寄せてここで始めて使用したウィービング・ラブ・グラスとのことである。山陵をぬって走るため屈曲も多く勾配も急であるが先年のバス事故を教訓として、注意を促しているため、その後のバス事故はないとのことである。比叡山のうっそうと生い茂る老杉の間には、開祖伝教大師以来もえ続ける法灯を安置する国宝根本中堂を始め、戒壇院等の重要文化財が点在しているが、時間の都合で見学できなかった。バスは急坂を上って一路四明嶽駐車場へ進む。下界では気候がらむし暑かったが頂上ではいくらかそう快な気分がした。四明ヶ嶽駐車場から頂上の京福電鉄経営の遊園地へ上る。ここに平将門がその上から京の都を見下して謀叛心を起こしたといわれる将門岩から見下ろすと眼下に京都の街がひろがり、御所、三条、四条、五条通りなど、京都の市街地の景観はすばらしく掌を指すようである。また京都大学のあるあたり、吉田山はつい目の下にある。ここで10分休憩した一行は再び車上の人となり、ドライブウェイを通り、今度は眼下に峻峻な山々をへだてて、広々とした琵琶湖を見渡しながら大津市中心部へと向う。9時30分トールゲートを通過、急勾配のドライブウェイを下りきると天智天皇をまつた近江神宮の参道を通り古の大津の都を思い浮かべながら、大津市の交通ターミナル浜大津から2級国道161号線

を経て山科インターチェンジへと向う。逢坂山の関所跡には、自動車の重量を測る計量器をそなえた検門所があり、昔も今も変わらぬ関所であるが、ここを過ぎると、間もなく山科インターチェンジである。バスガイドに変わって道路公園の方より名神高速道路についての説明をしていただく。1級国道1号線上に立体交差して架設されている蟬丸橋は上路式2ヒンジ鉄鋼板桁橋で上り線78.1m, 下り線88.3mの特殊橋である。逢坂橋をこえて山科にさしかかると名神高速自動車国道が国道1号線および京阪電鉄の京滋線と接している部分がある。この部分の山手部は非常に高い切取面を露出しており、両車線の高さは異なり、京滋線側の車線は少し張出しぼりとなっている。この辺の部分は旧東海道線の鉄道敷を使用しているので用地の買収も比較的早く完了したとのことである。午前10時に山科インターチェンジに乗入れた時にはお目悪く、カードレールのくい打ちの最中だったので、くい打ちが完了するまでまって高速道路に入る。名神高速自動車国道は5月25日より、京都南インターチェンジと栗東インターチェンジとの間、上り線、名古屋方面行きのみ無料で一般公開しているが、途中からの出入りは制限しているので、本日特に公園のご好意により、京都東インターチェンジからの乗入れを認めていただいたのである。京都東インターチェンジ付近はまだ工事中であるが、出入りの車線がいくつもあり、またここで国道のバイパス(いわゆる五条線)がわかれるので案内していただく。インターチェンジの上から見ていると、二重、三重に道路が重なっていて、どの道がどこに通じるのやらちょっとみただけでは見当のつかないほど大規模なもので一驚する。ようやくここを出て栗東へ向かって走る。インターチェンジをはなれればすぐ国道1号線、京阪電車を一またぎにする追分橋が

石山公園での記念撮影



関電大峯ダム



ある。この橋をこえると道路が山と京阪電車の間にあるため、上り、下りの車線は上、下にわかれていて、階段状に作られてずっと逢坂山トンネルへとびている。逢坂山トンネルはゆるくカーブしていて、トンネルから出るとすぐ国道をまたぐ蟬丸橋となり、また蟬丸トンネルに入る。したがってトンネルの入口は外部から進入する車に対して、目を慣れさせるため照度を大きくとり、順次暗くして照度の急変をさけるように配慮されている。公開されている上り線の照明はすでに点火されていたが、下り線はまだ照明灯はついていない。そのほかトンネル内には防音のためポースな陶製レンガを張り立て、また中央部には消火器などを備えつけるように考えられているとのことである。大津トンネルを出ると上下線の高さが異なり、どちらの車線からも一眺にして琵琶湖を見渡せるように設計されており、すぐ前方に大津インターチェンジが設けられている。ここはもともとサービスエリアとして考えられていたところであるので、建設中のレストハ

ウス付近からの大津の眺めは全くすばらしい。向って左側がいま下って来た比叡山でその山すそがすぐ琵琶湖となり、右手にははるか湖の向うに、別名近江富士といわれる三上山がみえ、脚下には古い大津の町並が細く左右にひろがり、その向うは琵琶湖である。この地は名神高速道路のうちでも随一の景勝の地として、特に力を入れて整備される由で現在レストハウス、食堂などの建築が着々と進められている。一行はここで15分休憩して、複雑なインターチェンジの線形に、あるいははるか向うのこんぺきの琵琶湖のながめに魅せられる。10時25分再び夢のハイウェイを栗東インターチェンジへと向った。中央分離帯の美しい植樹と、ゆるい斜面の切取部がクロノイド曲線を使用した道路ののり線と、びったりとけあって、自動車の走行に何の障害も感じさせない。道路にすいづくように走っているうちに周囲が開けて左側の東洋レーヨンの工場が見えて来る。ここで夢の超特急東海道新幹線が、音羽山トンネルから出て来てすぐ名神高速自動車国道の下をくぐり、ほとんど平行して瀬田川をわたる近江大橋はよほど気をつけないと、あっという間に過ぎてしまっって、今までの道路のようにはっきりと橋であるということがわからないように、すなわち速度に影響をおよぼさないように配慮されている。瀬田川から栗東インターチェンジまでは両側ともなだらかな丘陵地で工場も人家もなく視野を妨げるものがないので、きわめて快適にドライブを楽しむことができた。ところどころにある頭上を越える立体交差橋はみな新しい形式の非常にスレンダーな感じのもので美観上からも相当配慮された苦心のあとがうかがわれ、おおいに参考となった。ただ欲をいえば、縦断勾配の折れ曲がりの変化が多かったように思われ、切り盛りの土量の関係もあるであろうが縦断勾配ののり線にクロノイド曲線をとり入れたように、順次変化するような方法を取り、また速度が大きいのであるから同一勾配区間をできるだけ長くすれば、もっと安全感が保られるのではなかろうかと考えさせられた。10時45分、栗東インターチェンジを通過して、国道1号線、国道8号線の分岐点である栗東第二インターチェンジまで出て国

道1号線へお入り。現在の国道1号線は交通まひ寸前であると聞いていたが、名神高速自動車国道から国道1号線に下りたとたんには車は一時ストップ。栗東より瀬田までの間は交通量が多いだけでなく2車線しかないため、追越しがほとんど不可能であり、交通速度もゆっくりならざるを得ず、かくして名神高速自動車国道が一日も早く完成されるのを期待した。瀬田町より旧国道に入り名瀬瀬田の大橋、小橋を渡って、石山公園についたのは、12時寸前、ここの洗心亭で昼食をとり約一時間休憩。12時45分に再び車に乗り、つぎの見学場所南郷の洗ざきへ出発する。南郷洗ざきで事務所の方々の出迎えをうけ、屋上に案内されている説明をきく。洗ざきは琵琶湖湖岸の洪水調節を行なうため、南郷地先に明治29年に、レンガ造りの旧洗ざきが築造されたが、洪水調節をもっと、合理的かつ迅速に行なうため、治水計画の再検討が行なわれ、36年3月31日、洗ざき下流約120mの地先にドイツのMAN型鉄製越流式2段扉が築造された。この洗ざきは全開全閉ともおの約30分で作動でき、しかも管理所にて遠隔操作できるようにになっている。この新洗ざきの上流に明治年間に築造されたレンガ造りの旧洗ざきが見えたが、これは今年中に撤去されるとのこと。洗ざきをあとにして瀬田川沿いの道路を宇治川汽船乗場まで下る途中、天ヶ瀬ダムによる水没のため道路はつけかえ中であるので道はきわめてわるく左右にゆすぶられながら乗船場までゆく。船に乗ることのあたりから川は名前をかえて、宇治川となるのであるが、船に乗って下流大峯ダムの袖へ出る。この船が通るところは大峯ダムの湛水区域であるので水の流れはすこぶる遅く兩岸とも、うっそうたる木につつまれた山で新緑が美しい。大峯ダムより、宇治川に沿って約10分歩いて、大峯ダムバス停車場から、天ヶ瀬ダム工事現場までバスで出る。ダムに到着した頃よりかなり激しく雨が降ってきたのでダムサイトのテント下で、近畿地方建設局天ヶ瀬ダム工事事務所副所長と関西電力天ヶ瀬水力発電所土木課長から説明を聞いた(D班記事参照)。ここを4時に発ち一行は宇治川沿いに京都駅へ向かい、5時駅前にて解散した。なお、本見学にあたり、お世話になった日本道路公団、近畿地建、関西電力KK、その他関係各位に厚くお礼申上げる。

(京都市都市計画局計画課 利田・記)

## B班（名神高速道路・千里ニュータウン・東海道新幹線大阪電車区・堺・泉北臨海工業用地造成・大阪自動車駐車場）

この所雨天模様関西地方も今日は幸いにも1日もちょうどな様子、午前8時京都駅前に集合した参加者94名は名城大学の犬崎先生を班長とし、2台のバスに分乗して出発。日本道路公団大阪建設局の方々の案内で京都市南インターチェンジより名神高速道路へ乗り入れる。舗装も完成して一般国道とは比較にならない快的な乗り心地、60 km/hから80 km/hぐんぐん加速して最大設計速度の120 km/hを速度計が示す。まもなく東海道新幹線との立体交差部を経て前方に幾多の古跡で有名な天王山がせまってくる。東海道本線阪急京都線を1径間で渡ると最も難工事であった天王山トンネル1384 mに到着する。ここでは往復車線をべつべつのトンネルで構築しており、所長から詳細な説明と苦心談を聞く。特に照明、換気などの設備については最も新しい、かつ細心の設計が行なわれており、わが国最初の高速度路として技術陣の方々のご苦心がしのばれる。天王山トンネルを通過するとつづいて梶原トンネルである。このトンネルは中間部で山が切れているが人工トンネルとしており自然光線を遮蔽調整している両トンネルとも最後の仕上げ工事中であったが、われわれのために特に便宜をはかってくれたい感謝にたえない。再び乗車山沿いに茨木へ向って走る両側のガードレールも各種の形式が使用され、その白色が新緑に映えて美しい。まもなく茨木インターチェンジ約10万m<sup>2</sup>の面積にトランペット型の曲線型が描かれ、舗装などの工事に忙がしそう。ここから名神をおりて千

天王山トンネルにて



## 大阪城にて



里山ニュータウンに向かう。10時過ぎ中央近隣センターに到着、千里地区工事事務所長の中川氏の案内でバスに乗車のまま地区内を見学。この事業の名称は千里丘陵住宅地区開発事業ということで大阪府企業局の所管阪都心部より約15 km吹田市、豊中市にまたがる約350万坪に住宅都市を建設するもので土地利用区分は道路22%、公園緑地24%、住宅敷地44%、学校、保健所などの公共施設、それと商工施設に残部を当てている全地域を12地区に区分して各地区ごとに文教施設、近隣センター、診療施設、上下水道、公園道路などを綿密な計画に沿って順次施行しており、住宅建設の方は公営住宅、分譲住宅、大阪府住宅協会住宅、住宅公団などの高層アパート式のもの、独立住宅形式のものなど各種のものを適宜に配置している。すでに約1000戸程度のものが完成を見ており、流行のプレハブ建築も相当数見うけられた。将来は15万人の住宅都市とする計画とのものであったが、自然の風美を生かし変化に富んだ地形は住宅地として絶好の環境にあり、諸外国にも劣らないニュータウンとしてその成果が期待される。京都市南インターチェンジより名神高速道路を走行の途次車窓から国鉄東海道新幹線の築造

千里山ニュータウン



が築堤式、または高架構造で延々大阪方に延びている状況が見られる。バスは三島町鳥飼付近道場布施豊中線の鳥飼大橋北側に到着、ここは新幹線大阪駅始発到着列車の収容検査清掃整備を行なう電車区の予定地で450両収容可能な電車区と貨物駅も併設の予定で用地面積約50万m<sup>2</sup>現在盛土整地作業中である。なお新幹線建設資材基地として資材の整備搬出が行なわれている。

これらの詳細について国鉄幹線工務局三島町工事区長山中氏から説明していただき完成の暁の偉容を目に浮べながら大阪城に向かった。12時過ぎ大阪城天守閣を2班に分れて見学、修道館にて昼食を終え、14時前出発、堺市の大阪府企業局臨海開発部に到着、係員の方の同乗を得てそのまま工業用地造成の状況をバスにて見学してまわる。

この事業は重化学工業を中核とする臨海性工業を計画的に誘致するため立地条件の良好なる堺ならびに泉北海岸一帯を埋立て用地の造成を行なうもので堺約400万坪泉地約200万坪の計画で泊地はO.P.-16 m、10万重量トン級大型船舶の入港を可能とするようにしゅんせつ、その土砂をもって埋立てを行ないつつある。敷地も大半分譲契約が終り工場建設のつち音が高々と響いている。敷地造成とともに工業用水電力道路などの運輸施設などについても着々整備が進められており、全企業操業の暁には工場建設機械設備など6000億、その生産額は年間1兆円に達すると見込まれている。

なお、大阪府民の海水浴場の代替として大規模プールなどを中心としたリクリエーション施設も実施に移されつつあ

り、木目の細い計画と感銘を受けた。バスは石津川付近で東北方面を一望のうえ反転八幡鉄鋼ビルに到着、八幡製鉄H型鋼などの説明を坂田課長からお聞かせ頂き、つづいて約20分敷地造成と工場建設の映画を見せて頂き屋外にて付近の視察をして16時20分俵を後にした。

バスは国道26号線を北上大阪市内国鉄環状線の辺りから交差点で自動車は停滞一向進まない、雨もぼつぼつ降り出して気にかかる。ようやく17時過ぎ大阪駐車場に到着。この駐車場は大阪中心部のやや南に位置する人工河川長堀川のうち東西両横堀川の区間約1200mを埋立て地下2階および地平部分を駐車場とするもので収容台数900台、うなぎの寝床のような細長いもので使い、勝手は悪いようであるが何しろ土地取得の困難な都心部のど真中ということでこんな知恵が浮んだらしい。できると道路も相当広がる計画だそうで日本道路公団大阪支社浅田調査役、石川副参事のご案内で説明で見学させて頂いた。東半部は完成近く付帯施設の工事を急いでおり7月末には供用開始の予定とのことで公営駐車場1号として期待されているとのこと。次第に雨のはげしくなる中をラッシュ時で難行しながらも予定通り18時大阪駅着全日程を完了して解散した。

終りに際してこの見学会に多大のご配慮を頂いた名神高速大阪建設局、日本道路公団大阪支社、国鉄大阪幹線工事局、大阪府企業局、八幡製鉄KKの関係各位の方々に厚くお礼を申し上げて筆をおく。

【大阪市計画局計画課長 水野・記】

### C班（兵庫コース）

第1日（5月27日・曇り後晴）夜雨早朝ながら、京都駅前には総会大会を終わって、各班にわかれての見学会に出発する土木学会会員で眠っていた。今年の関西地方の5月は、晴天の日が数えるほどし

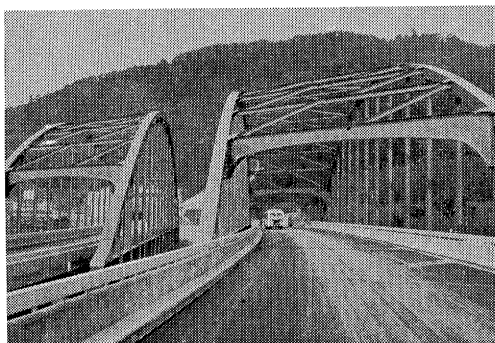
かなく、今回の見学会も、天候の点が何よりも気づかわれたのであるが、どうやら薄日のさす曇り空で、何とか夕刻までにはもちそうである。

C班のバス2台は、先を急ぐため、定刻8時に出発した。中村廉次氏を班長とし、同行の石田関西支部長を加えて参加人員は80名。京都の街を南下して、京都南インターチェンジから、まず第一の見学先である名神高速道路に乗り入れた。ほかに交通のない高速道路を、われわれのバス2台だけが走るのには実に快的である。7月中旬に、滋賀県栗東町から、兵庫県尼崎市までの完成をせまられている日本道路公団には、変則的な5月の長雨は、たまらない思いであろう。大体の工事は終了しているが、天王山トンネルと、関西大学付近の2カ所が、雨といわず風といわず、文字通り昼夜兼行の工事である。道路公団の好意で、いつもはなかなかの見学も断っているのに、われわれのために無理にこの現場を通していただいたのだが、大きなバスの通るためのわずかな手抜きも、現場員には惜しうであった。現場で若干間どつたので、尼崎インターチェンジまで1時間20分ほどかかったが、完成後の経済効果の大きさをしみじみ感じた。尼崎市内の街路から、国道2号線を通り、第2阪神国道に出たが、市街地の一般交通と、高速道路交通の美を味った。第2阪神国道は、さすがに50mの大幹線で、終戦直後から思いきった計画と、数々の労苦の上に、本年1月兵庫県の部分の竣功を見て、日々通過車両の増加を見ている。許容自動車台数は12万台といわれているが、現在ではまだ4分の1の程度であろうか。その中を神戸までは順調に進んだ。最初の予定時間を多少超過したので、明石のフェリーボートに間に合うかが心配になってきた。神戸市内から明石市まで、割合に順調に走れて、時間いっぱい滑り込んでほっとした。これに遅れる

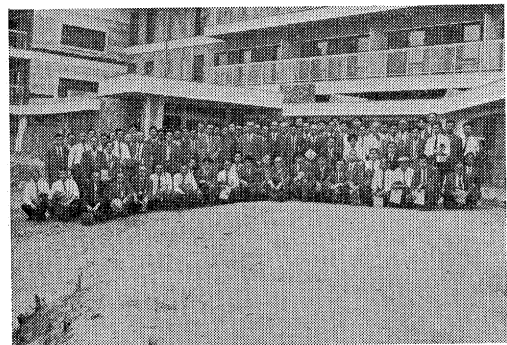
と、必ずしも次便に乗れるとは限らず、後の予定が全部無になってしまうところであったからである。フェリーの乗船時間は30分。淡路島に到着頃から晴天となり、強い日ざしとともに、むし暑さに悩まされ、淡路の国道28号線には所々未改良の悪路があって、南淡町までの2時間余の強行軍は、さすがの土木マンもへばったようである。午後2時南淡町で観潮船に乗船。鳴門海峡の世界的な渦潮を見たわけであるが、ちょうど干潮に合わせるための強行軍であったので、大きな渦を目のあたりにして、今までの苦しさは半分は消し飛んだ様子であった。船を特別に南淡路国民休暇村の棧橋に着かせ、国民宿舎「うずしお荘」で一休みしていただく計画は、棧橋から山頂の宿舎まで急勾配の階段に、お年寄りに気の毒であった。淡路島は「花とミルクと、オレンジの島」をキャッチフレーズとしておる。南淡町長から届けられた冷たいミルクで一服し、記念撮影をして洲本市にもどり、宿泊予定の海月館に到着した時は、5時半になり、予定の天気は予報通り雨となってしまった。しかし、この日は雨は何も見学会に届かなかったことを喜びたい。沿道であびたほこりを、温泉ですっかり落して、ゆかたがけにくつろいでもらい、6時半に洲本市長の歓迎の挨拶の後、淡路人形じょうりを観た。小人数で時間も短いちやちやな舞台であったが、意外に好評で、遠来の皆様に喜んでいただいたことは、企画した側として非常に嬉しかった。7時過ぎ懇談会に入り、石田関西支部長の歓迎の挨拶の後、中村班長の班を代表しての、総会から見学会に至るまでの関西支部への謝辞のあったのち、和気あいあいのうちに、きわめて盛會裡に第1日の行程を終ったのである。

第2日（5月28日雨後曇り一時晴）夜来の大雨は、疲労したわれわれを目ざますほどの音を立てていた。近くの波の音と、床になれないことも原因になって

鰐丸橋



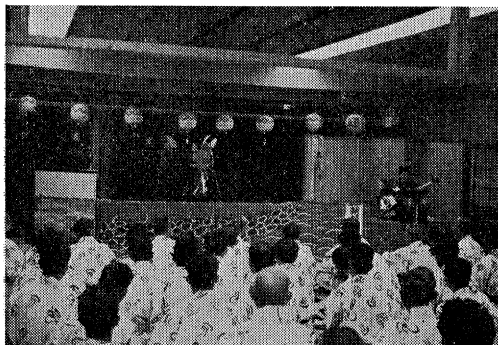
うずしお荘での記念撮影





いたのかもしれない。雨が困まったなと思いつつも、眠りに入って目がさめると、何よりも気になるのは空模様である。昨夜の降り方はどのようなものであったかは、常日頃の土木マンならばまた別の面に気を使ったであろうが、今朝は、これからの日程のために、ひたすら空模様を気にしたのである。朝食の頃はミストが非常に濃かったが雨は無かった。ところが8時の出発の頃から大降りとなり、再びフェリーボートの人となり、明石に着くまでは、今日一日雨中旅行かと覚悟せざるを得なかった。しかし明石に着いてからはほとんど雨はやみ、やれやれと神戸市との市境まで順調に来た時、神明国道は思いがけぬ交通マヒであり、どこで事故があったかはわからぬままに蝸牛行進を続けなくてはならなくなった。目の先の天候より、昨夜の大雨の結果の方が恐ろしかった。須磨地区で、国道が浸水のための交通不能となった結果であったのである。蝸牛行進が約40分の遅延を生んで、神戸市港湾の埋立地に着き、説明を聞いているうちに正午となった。このため、鶴甲山からベルトコンベアーで運んで来た堆積土を、エアークンプレッションで5秒で一割の割合にダンプカーに積みこむ作業状況が、昼休みで見られなかったし、鶴甲山の縦坑に、ブルドーザーで押しこみ、ベルトコンベアーに移す有様を見るために、せっかく神戸市の港湾埋立局で、バスが現場まで行けるよう準備してもらったことも無為に帰し、神戸大学の付近から鶴甲山の全貌を見るだけに終った。しかし神戸市港湾埋立局の懇切なる説明と、土木マンらしい適切な質疑の交換のうちに、殊異な工法としての埋立状況は、十分に理解して貰えたと思われる。つぎのコース、表六甲ドライブウェイを進むにつれ、すごい濃霧におそわれて、視界0の中を、勝手知った神戸市交通局のバス

人形じょうり



は、頂上目指して速度も落さず進んだが、やがて頂上というところで、からりと晴れた上天気。全く嘘のような光景に、一同啞然としながらも、ニコニコしましたが、下界はやはり全然見えない。山頂に近づく、裏側、すなわち北側は雨上りの丹波方面の山波が、美しく緑に照りはえていて、表側の見られないのもう一度残念がった。六甲カントリーハウスで昼食をとり、青々した芝生の上で記念撮影をする。午後2時、裏六甲ドライブウェイに向うまでに、あきらめきれずにもう一度展望台に向かうが、神戸市一帯はやはり濃いミストに遮ぎられて見えない。芦有道路の展望所を最後の頼みとして、裏六甲ドライブウェイから温泉郷有馬を通り、芦屋市と有馬を結ぶ民営有料道路芦有道路に着く。アルミ合金の橋梁であるとか、民営自動車道路最長のトンネルであるとか、新しい試みの数々を聞きながら頼みの展望所に着いたが、やはり展望はきかなかった。昨夜来の気圧配置に、最後まで禍された一日であった。しかし一面、景色に気をとられず、ドライブウェイのあり方を十分に見られたという意見もあったが、案内者としては、有料ドライブウェイが、なにゆえに設けられたかの答えにふさわしい展望もしていただきたかったと残念に思う。芦有道路を下って芦屋市に入り、国道2号線を西行して、午後4時三宮駅に到着。2日間の日程を無事終了して解散した。

C班の日程は、この見学会唯一の2日間の行程であり、しかも時間的にしぼられたため強行軍をして、ご年配の方にはお疲れになったことと思われる。天候に禍いされたとはいえ、どうやら予定通りの行程を終えたのであるが、見のがされた点は、再度機会を得てご来訪されることを望む。この見学会に、日本道路公団を始め、芦有道路、神戸市、洲本市、南淡町等の公共団体など種々ご配慮願った

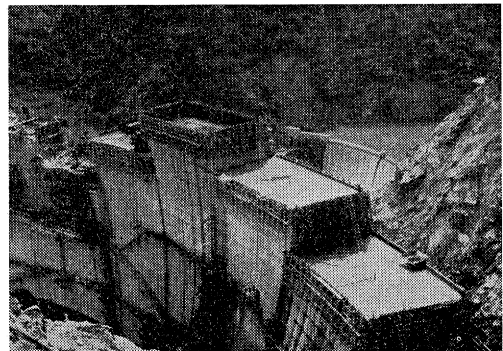
ことを付記し、御礼申上げる次第である。

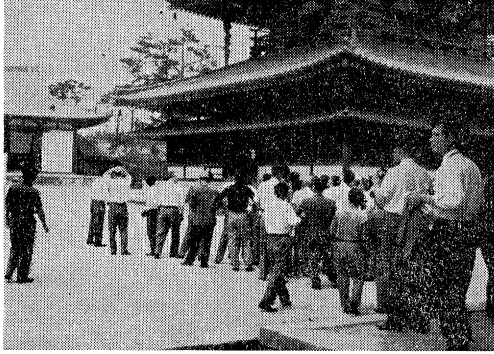
【兵庫県土木建築部計画課長小笠原・記】

## D班（奈良コース）

予定より10分おくれて77名をのせた2台のバスは京都駅前を出発。ガイドの市内観光を聞きながら、伏見観月橋を渡り、宇治川に沿い平等院を横にみて、天ヶ瀬ダムに向う。ダムにて地建および関西電力の関係者からダム、発電所の説明を聞く。このダムは「淀川水系改修基本計画」のもとに宇治川に天ヶ瀬ダムを、木津川に高山ダムを築造して洪水調節を行なうもので、平時はダムを利用して、琵琶湖の豊富な水量をもって、92,000kWの発電所を新設し、京阪神方面の電力需要に応ずるとともに、地元市町村に最大24,000m<sup>3</sup>/日の上水道用水を供給する。工事は昭和32年度より建設省直轄工事として発足し、昭和37年3月中旬よりコンクリート打設を開始したものである。見学時間約30分、予定通り出発する。国道24号線沿いに宇治の茶屋を見ながら一路奈良へ向う。途中城陽、山城、木津町を通り奈良市に入る。右にドリムランド、左に東大寺を眺め、高畑より春日奥山周遊道路に入る。この周遊道路は昭和3年拡幅され、一周約14km春日大社の背後、花山、芳山一帯の裏山跡を一巡するもので、沿道は樹木がうっそうと茂って、屋なお暗く、付近には春日山大杉、妙見宮、歓喜天、鶯滝、七本杉などがある。古来春日大社の神山として、木を切ることを禁じていたため、原始林（特別天然記念物）のすがたを表わしていたが、伊勢湾台風により風倒木が多く、幾分分かるさをましている。途中より新若草山道路に入る。十国展望台にて約10分休憩。天候の関係で生駒山脈はかすんでいたが、奈良市内一円は手にとるように見える。展望台を出発し、三

天ヶ瀬ダム

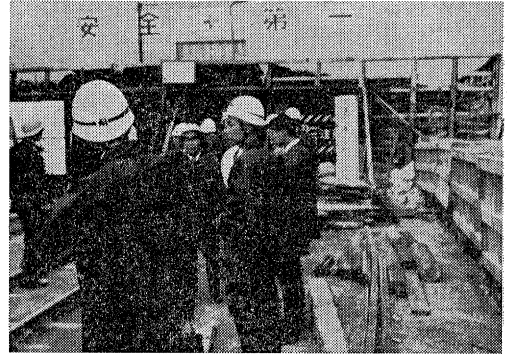




笠温泉郷、正倉院の傍を通り、東大寺転害門を横に見ながら公園内の県公会堂に着く。この2路線とその南側高円山にある高円自動車道路を結んで、万葉ドライブコースという。公会堂にて昼食。約40分休憩し、公園の緑の芝生、鹿を楽しみ、一同写真を撮り、法隆寺に向う。興福寺の五重塔、奈良ホテルの横を通り、国道24号線、25号線を快適に走る。法隆寺にて文化財保存課の方より説明を聞き、かけ足で南大門、五重塔、金堂、大講堂、大宝蔵殿を見てまわる。ちょうど修学旅行シーズンで中、高校生徒で大混雑であった。この寺は南都七大寺中第一の古寺で、創建は推古天皇が先帝の用明天皇の遺志を果たすため、薬師如来坐像を造り、聖徳太子とともに607年に寺を建てたもので、当時の建築が今日まで残っているのは法隆寺だけである。国宝指定の建造物は17棟、そのほか重要文化財の彫刻、絵画、工芸品など各時代の粋を集めた美術の一大宝庫である。

2時出発。元の道を帰り奈良にて、今度竣工した大森陸橋（関西本線、桜井線の跨線橋）を渡り、薬師寺、唐招提寺を左にみながら、阪奈道路の終点尼ヶ辻にて、道路公園の人をのせ、阪奈道路を走

る。阪奈道路は総延長17.7kmで、国道25号線にくらべ、大阪～奈良間が約14km短縮された道路で、昭和30年末より着工、翌年道路公団発足と同時に引き継ぎ、昭和34年供用を開始した。途中に国際ゴルフ場があり、車道幅員6.5m、アスファルト舗装10cmで施工され、昭和34年2600台/日の交通量は現在すでに8000台/日を突破し、所期の目的を達している。現在の問題としては、土砂運搬車が多く、山土をこぼしながら走るため、舗装補修に頭を痛めている。その沿道は山土の採取場となっている現状である。生駒料金所にて2班にわかれ、1班は生駒側へ、2班はそのまま阪奈道路を走り、途中より生駒山上自動車道路、室山寺自動車道路を通して石切側へ行く。新生駒トンネルは総延長3500m、現トンネルは大正3年の竣工で50年を経て、現在奈良線の輸送力増強は焦眉の急で、その打開策として、車両大型化が実施され、それにともない大型複線断面の新トンネルが計画された。位置としては数種検討の結果、掘削の影響を考慮して、現路線の南側に並行し、その間隔は55mである。工事は西坑口から進め、石切側は底設導坑先進上部半断面掘



削、生駒側は上部半断面掘削で、現在の進行状況は石切側は導坑1200m、半断面掘削650m、生駒側は民家の移転および騒音の問題で着工がおくれ、半断面掘削520mである。昭和39年4月完成、同年7月より営業開始の予定である。見学後約30分質疑応答の後、1班は近鉄自動車部の案内にて、室山寺自動車道路、生駒山上自動車道路を走る。あいにくの小雨で生駒山上に出るも、眺望全くなし。この他現在生駒山上より信貴山にいたる生駒縦走自動車道路（延長12.0km）を工事中で、来春には開通の見込みである。大東市を経て、大阪市内に入り、市内交通の混乱ぶりを目のあたりに見て、う回路を通り大阪駅に着く。

終りに、このたびの見学にご便宜を賜った、近畿地方建設局天ヶ瀬工事事務所、関西電力、近鉄奈良線改良局、道路公団、近鉄自動車部ならびにそれぞれ現場ご説明に当られた関係者の方々に厚く御礼申し上げます。なお限られた時間のため、工事現場、奈良公園の風景を十分みていただくことができず残念だったが、またの機会にゆくりきて頂くことをお待ちして報告にかえる次第である。

【奈良県土木部計画課長 田中・記】

## 海外ニュース

### 世界銀行シンガポールの発電所に借款

シンガポール政府はいまシンガポール南西約8kmのバシル・パンジャン発電所の近くに出力12万kWの発電所を総工費2158000ドルで建設しているが、世界銀行は5月16日、この発電所の建設のために1500万ドルの借款を供与すると発表した。世界銀行がシンガポー

ルに借款を供与するのはこれが初めてで、条件は20年間に償還、年利5.5%、1966年から償還を開始する。新発電所は行く行くは出力を24万kWにする予定で、シンガポールの電力需要をほぼ満たすことになる。